



学校だより

令和6年 11月 1日

東京都立村山特別支援学校

校長 阿部 智子

〒208-0012

武蔵村山市緑が丘 1460 番地 1

電話：042-564-2781

「秋本番が急にやってきました。11月は村山祭です。楽しみです。」

10月になっても暑い日が続いていて、1週間のうち、寒暖の差の激しい状況が続きました。テレビの報道では、マイコプラズマ肺炎、新型コロナウイルス感染症、インフルエンザの患者が増加してきているので、うがい手洗いななど基本的な感染対策をしっかりと行って予防してくださいとの呼び掛けがありました。学校では教職員の感染対策を十分に行い、健康に気を付けるよう指導しています。これから寒くなる時期ですから、児童・生徒への体調把握には万全の態勢で臨んでいきます。御家庭でもお子様の顔色の変化などで気が付いたこと、平均体温やサチュレーション（酸素飽和度）などの数字で見られる変化などを遠慮なくお伝えください。11月は文化祭があり、発表に向けて日々頑張っております。短い秋の季節の移り変わりを楽しみながら、子供たちの成長を促してまいります。

【今年度の宿泊行事が終了しました】



中2 移動教室



中3 修学旅行



高2 修学旅行



今年度の宿泊行事が無事終了しました。どの学年もお天気に恵まれて、十分な活動ができたので、素敵な表情で学校に戻ってきました。肢体不自由特別支援学校では通常の授業や、校外学習はグループでの活動が多いのですが、宿泊学習は学年の行事となり、集団での活動を重視して準備を入念に行います。一緒に入学して、卒業する「学年」の結束力を高め合える時間を共有することができます。私は高等部の修学旅行に引率いたしました。「普段見られない姿を見せてくれる」そういったうれしい時間でした。体調管理への御協力をいただいた保護者様、付き添い寄り添ってくださったお医者様に感謝申し上げます。

【東京教師道場という名の教員の研修】



教員の研修の一つに「教師道場」という名前の研修があります。教員になって4年目以上の教員が研究授業を行い、他校の同じ部員と授業を見合い、授業の方策や指導方法などを話し合い協議することで授業力を上げていく研修です。先日、本校に3つのグループの部員が集まり道徳科の授業について研究協議を行いました。子供たちに付けたい力は、何なのか。どのようにアプローチして「考える道徳」の授業を作っていくのか。

授業づくりに時間をかけ、子供たちの気持ちや言葉を引き出すための教材を考えます。「教師道場」という名前から武道の強くて怖いイメージをもたれるかと思いますが、教員は熱心に授業力向上のために腕を磨いています。

【道徳授業地区公開講座とは・・・12月13日(金)に行います】

本校では、道徳授業地区公開講座を12月13日(金)に行います。道徳授業地区公開講座とは、学校、家庭及び地域社会が一体となって子供たちの豊かな心を育むとともに、小・中学校等における道徳教育の充実を図ることを目的として、東京都教育委員会と区市町村教育委員会が連携して、平成10年から都内公立小・中学校等で開催しているものです。

従来の「道徳の時間」は、読み物の登場人物の心情理解に偏り、主人公の気持ちを考えさせ、それを書かせたり、発表させたりする授業になっていたことが課題とされてきました。それでは「国語」の読み取りの授業と混同されやすいからです。

例えば、**国語の授業との違い**を考えてみると、文学的な文章を読んで、「主人公はなぜこのようなことをしたのか？」という問いは、教材から答えを見つけて答えるという問いであり、文脈を捉えることに重きが置かれていますが、「自分にとってどうなの？」ということを考える必然性のない問いです。

しかし、「**特別の教科 道徳**」では、自ら、考えざるを得ないテーマを投げ掛けたり、人と話をするテーマを設定して問い掛けたりして、児童・生徒が自分なりに考え、言葉にすることが大切です。それをとおして、自ら考えを深め、自分自身の問題と捉え、向き合う、「考える道徳」「議論する道徳」に取り組んでいかななくてはならないのです。

教員としては「**考えに足る発問**」をして「**他者と話して言葉を整理する道徳**」に取り組んでいかななくてはなりません。多面的・多角的に考える学習を充実させることが必要です。

村山特別支援学校では「**特別の教科 道徳**」の時間で自分の考えを深める思考のプロセスを大切にしていきたいと考えています。

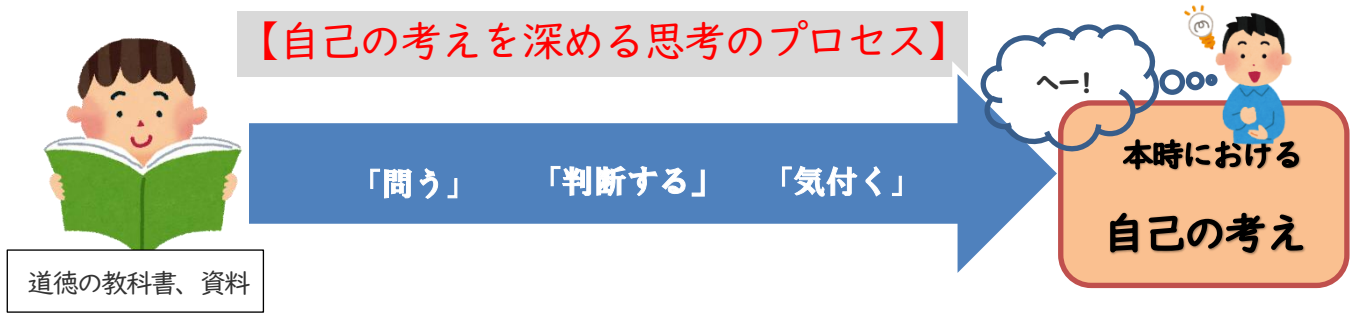
道徳授業地区公開講座の「ねらい」を実現するための児童・生徒への指導の創意工夫について、当日私からお話しさせていただきます。ぜひ本校の道徳授業地区公開講座に御参加ください。

道徳的価値とは、よりよく生きるために必要とされるものであり人間としての在り方や生き方の礎（いしずえ）となるものである。学校教育においては、これらのうち発達の段階を考慮して、児童・生徒一人一人が道徳的価値観を形成する上で必要なものを内容項目として取り上げている。（学習指導要領解説 特別の教科道徳編より）

内容として、下記のように4つの視点、22の内容項目に分けて示している。

「特別の教科 道徳」の22の内容項目 ※ **青字**は小学部だけにある内容 **赤字**は中学部で変わる・加わる内容

	A 主として自分自身に関すること	B 主として人との関わりに関すること	C 主として集団や社会との関わりに関すること	D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること
小学部	<ul style="list-style-type: none"> ・善悪の判断、自律、自由と責任 ・正直、誠実 ・節度、節制 ・個性の伸長 ・希望と勇気、努力と強い意志 ・真理の探究 <p style="text-align: right;">6</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・親切、思いやり ・感謝 ・礼儀 ・友情、信頼 ・相互理解、寛容 <p style="text-align: right;">5</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・規則の尊重 ・公正、公平、社会正義 ・勤労、公共の精神 ・家族愛、家庭生活の充実 ・より良い学校生活、集団生活の充実 ・伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 ・国際理解、国際親善 <p style="text-align: right;">7</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生命の尊さ ・自然愛護 ・感動、畏敬の念 ・よりよく生きる喜び <p style="text-align: right;">4</p>
中学部	<ul style="list-style-type: none"> ・自主、自律、自由と責任 ・節度、節制 ・向上心、個性の伸長 ・希望と勇気、克己と強い意志 ・真理の探究、創造 <p style="text-align: right;">5</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・思いやり、感謝 ・礼儀 ・友情、信頼 ・相互理解、寛容 <p style="text-align: right;">4</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・遵法精神、公德心 ・公正、公平、社会正義 ・社会参画、公共の精神 ・勤労 ・家族愛、家庭生活の充実 ・より良い学校生活、集団生活の充実 ・郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度 ・我が国の伝統と文化の尊重 国を愛する態度 ・国際理解、国際親善 <p style="text-align: right;">9</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生命の尊さ ・自然愛護 ・感動、畏敬の念 ・よりよく生きる喜び <p style="text-align: right;">4</p>



児童・生徒が問題について主体的に自分との関わりで「問い」続ける中で、他者と話をし、自分の「判断」をもち、へーそうなんだ!と「気づき」に至るまでの思考のプロセスを支えるのが「主体的・対話的で深い学び」の視点です。特に児童・生徒が新たな「気づき」に出会うためには「深い学び」が必要です。そのためには、「明確な意図に基づいた授業構想」とともに、児童・生徒の「自己の考えを深める思考のプロセス」を意識した指導の実践が大切である。(道徳科 指導と評価のガイドブックより) とされています。

◎ **知的障害を有する児童・生徒の教育課程上の「道徳」の取扱い**

村山特別支援学校では、「道徳」の内容は「各教科等を合わせた指導」で適切に取り扱うとともに、全ての授業において関連を密にしながら経験の拡充を図るものとしています。

特別支援学校学習指導要領 第3章「特別の教科 道徳」においては、知的障害者である児童又は生徒に対する教育を行う特別支援学校において、内容の指導に当たっては、個々の児童又は生徒の知的障害の状態、生活年齢、学習状況及び経験等に応じて、適切に指導の重点を定め、指導内容を具体化し、体験的な活動を取り入れるなどの工夫を行うこと。とされています。

➔ **評価においては**「日常生活の指導」「生活単元学習」等で「道徳性」を育てるためにどのような指導を行い、どのような「学習状況及び道徳性に係る成長の様子」があったかを3観点によらず、端的に記録するとしています。

【学校運営連絡協議会 10月21日(月)校長室にて行いました】



今年度第2回となる第2回学校運営連絡協議会を行いました。今回は、本校の児童・生徒が考えている「学校に期待すること・現在から新校舎建設への思い」を、評価委員長の法務省人権擁護委員、元東京都教育庁指導部盲・ろう・養護学校教育担当課長、初代永福学園校長 小林 進様、評価委員の村山特別支援学校PTA会長小谷野 容子様にご覧いただき、児童・生徒の前向きではありますが、現実的な発言について活発な御意見をいただきました。現状の仮設校舎でできること、3年後の本校舎建設に向けて、地道に取り組んでいくこと、準備していくこと等、検討をいたしました。令和6年度の学校評価の進め方については、アンケート項目を見直し、より答えやすいように整理いたしました。教員と保護者の項目がリンクするようになっていて、結果については比較できるようにいたしました。

御回答に関しては、①携帯電話からフォームを活用して提出。②添付封筒に入れて紙で提出。どちらの形式でも結構ですので、「学校を良くするには!」という視点を持ち、ぜひ御提出をお願いいたします。アンケートの提出締切日は11月8日(金)です。

【村山祭をお楽しみに! 「きらめけ村山祭 2024 元気いっぱい頑張ろう エイエイオー!!!」】

11月7日(木)11月8日(金)(両日とも受付9:25)が、仮設校舎での文化祭「村山祭」となります。現在、お休みには実行委員会が、研修会議室に集まり、細かい打ち合わせをしながら練習を行っています。乞う御期待です。